

1. 2 津波シミュレーションの計算条件について

南海トラフ巨大地震（M9.1）の5つのケース全てにおいて、東京都の島しょ部・東京湾岸を対象に、以下の計算条件で津波数値シミュレーションを実施した。なお、津波高の計算結果は T.P.表示とする。

使用した津波断層モデル（波源モデル）

- ・南海トラフ巨大地震 内閣府（2012）モデル ケース①、②、⑤、⑥及び⑧

計算条件

- ・メッシュサイズ : 10m（主要な島の沿岸）～30m～90m～270m～810m（外洋）
- ・運動方程式 : 非線形長波式（浅水理論式）
- ・再現時間 : 12 時間
- ・初期水位分布 : 断層モデルから鉛直地殻変動量分布を計算し、時間差無しで全メッシュに鉛直地殻変動量を初期水位として付与。
- ・破堤条件 : 越流した際に破堤する。
- ・潮位 : 各島の朔望平均満潮位（High Water Level : H.W.L.）を初期潮位とする。各島の初期潮位（DL 基準）を T.P.に換算した値は以下のとおり。

大島	DL+1.5m (T.P.+0.6m)
利島	DL+1.6m (T.P.+0.63m)
新島、式根島	DL+1.7m (T.P.+0.73m)
神津島	DL+1.96m (T.P.+0.99m)
三宅島	DL+1.7m (T.P.+0.62m)
御蔵島	DL+1.5m (T.P.+0.58m)
八丈島	DL+1.7m (T.P.+0.75m)
青ヶ島	DL+1.7m (T.P.+0.83m)
父島、母島	DL+1.1m (T.P.+0.4m)
(東京湾)	T.P.+0.966m (A.P.+2.10m)

注)

- ・ T.P.(Tokyo Peil) : 東京湾平均海面
- ・ A.P.(Arakawa Peil) : 霊岸島量水標零位。明治6年6月～明治12年12月の隅田川河口の霊岸島の量水標の観測結果より、旧日本軍陸地測量部が決めた基本水準面の高さ。ほぼ大潮干潮位に当たり、荒川工事基準面として利用される。T.P.+0m=A.P.+1.134m。
- ・ D.L.(Datum Line) : 港湾、海岸毎に決められた水深の工事事業基準面(DL)、若しくは気象庁ホームページに記載されている観測基準面(ODL)のこと。

浸水深の表示

- ・ 国土交通省ほか（2012）「津波浸水想定の設定の手引き Ver.2.00」に準拠する。